

平成30年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

家族経営における大規模水田経営と高品質・高収量麦生産の取組

○氏名又は名称 二村 誓也

○所在地 愛知県岡崎市

○出品財 経営（麦類）

○受賞理由

・地域の概要

岡崎市の南部は、愛知県の中央部に位置する古くからの米どころであり、水稻・麦・大豆を主体とした土地利用型農業を中心に花き、野菜の施設栽培が盛んである。

二村氏の経営するほ場がある岡崎市南部の六ツ美地区は、ほ場整備による大区画ほ場が広がっており、大規模な水田作農家が多い地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成2年、23歳の時に、父母の農業経営に就農。就農当時の25haの経営規模から経営面積を毎年、着実に拡大している。

夫婦二人と両親、後継者（夫婦）の家族経営で、平成29年の経営面積は、小麦25ha、大豆25ha、水稻43haの延べ93haの大規模水田経営を展開している。

・受賞者の特色

(1) 家族経営で大規模水田作を可能とする省力化、効率化の徹底

アップカッターロータリーによる小麦の耕起・施肥・播種同時作業や水稻の乾田直播栽培の導入、無人ヘリコプターによる防除など省力栽培技術を積極的に導入し、作業時間は県平均と比べ2割短縮。また、家族内で経営協定を結び、家族の役割分担や給与、休日を明確化し、意欲的・効率的に働ける環境づくりをしている。

(2) 綿密な作業計画に基づく適期作業ときめ細やかな栽培管理

気象状況や作業データから綿密な作業計画を作成することで、効率的に作業をしており、大規模経営でありながら適期に播種、防除及び収穫を実施している。

また、ほ場の丹念な巡回によりほ場状況や生育状況を的確に把握し、排水対策や追肥をきめ細やかに実施している。

(3) 高単収・高品質麦生産の実現

優れた栽培管理により平成29年産の小麦（きぬあかり）の10a当たり収量は685kg、1等比率も81%と非常に優れている。特に10a当たり収量は全国平均の427kg、北海道平均の500kgと比較しても大きく上回っており、高収量高品質な麦生産を実現している。

・普及性と今後の発展方向

家族経営協定による家族内の労働環境整備や作業の省力化・効率化のための工夫など家族経営であっても大規模な水田経営が可能であることを示した優良な経営事例である。今後は、更なる経営の安定に向けて園芸部門も組み込んだ複合経営や法人化を目指している。